

「低温やけど」について



「低温やけど」とは

暖かく気持ちがいいと感じる程度の温度でも、皮膚の同じ部位が長時間触れていて、熱いと感じないまま「やけど」になってしまうことです。

症状：気が付いたらちょっと赤く、ひりひりするくらい

1日放っておいたら水ぶくれができてぐじゅぐじゅする

低温やけど 原因の主な暖房器具

- 使い捨てカイロ
- こたつ
- 湯たんぽ
- 電気毛布
- 電気アンカ



冬の寒い時期、ご家庭で暖を取られる中で、低温やけどの事故が多発しています。低温やけどは普通のやけどに比べて痛みが少なく、水ぶくれなどもできにくく、乾燥していることが多いため、一見軽症に見えますが、長時間熱の作用が及び、深いやけどになることも珍しくありません。足、腰、臀部など下半身にできることが多いです。高齢者は若年者に比べ感覚が鈍く、熱源に接する時間が長くなり、重症化しやすいです。

事故を防ぐための注意点

- 長時間同じ場所を温めない
☞皮膚が損傷を受ける表面温度と時間

44℃ 電気アンカ	46℃ 湯たんぽ表面	50℃ カイロ
3～4時間	30～60分	2～3分

- 暖房器具や湯たんぽ、カイロ等を使用する場合
 - ☞布団が暖まったら湯たんぽやあんかは布団から出す
 - ☞寝るときにカイロは使用しない、肌に直接貼らない、同じ部位には使用しない
 - ☞電気毛布等は低温で、就寝時はタイマーを活用する
- 低温やけどは水で冷やしても効果はありません。

☞見た目より重症の場合があります。

痛みや違和感がある場合は医療機関を受診しましょう。